堀川通松原付近を流れる堀川の風景

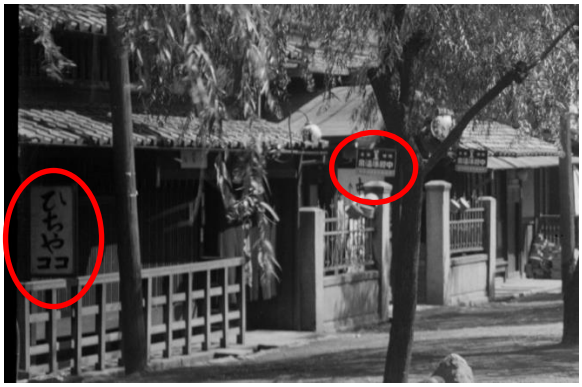
戦前は農業用水や友禅染めにも利用されていた堀川。戦後の下水道の整備などにより水流はほぼ消滅していましたが、平成 14（2002）年から琵琶湖疏水分線の水を引き込む整備事業が行われ、同 21 年に水流が復活しました。現在では、一条戻橋から、御池通付近までの区間で、復活した流れを見ることができます。

黒川翠山撮影写真資料のなかには、今では見ることができない、堀川通松原付近を流れる堀川の風景を写した写真（No. 965）があります。松原橋から南を向いて撮影された写真には、川の両側に柳の木が生い茂り、緩やかなカーブを描きながら流れる堀川が収められています。写真奥に生い茂る木立は、京都六条の地にあった本圀寺（ほんこくじ）（昭和 46（1971）年に山科区御陵へ移転）のものと思われます。

写真左側（東側）に目を移すと、「ひちや」の看板が見えます。

「ひちや」は「質屋（しちや）」のことで、その隣には見えにくいかもしれませんが、「中将湯温泉（ちゅうじょうとう

おんせん）」の看板を掲げる銭湯があります。建物入り口の屋根は唐破風になっており、塀には風呂桶を掛けて乾かしている様子も見てとれます。



「中将湯」とは、明治 26（1893）年に創業した津村順天堂（現・株式会社ツムラ）のロングセラー商品の婦人薬「中将湯」のことです。中将湯の入浴剤を導入していた銭湯は「特約浴場」であることを示すために、「中将湯温泉」の看板を掲げていました。生薬の効果で温泉のように温まると評判だったようです。

（2018 年 2 月 5 日公開）